市報 みなみ魚沼
2022.10 October
●発行日 2022年10月1日 第215号
●発行 南魚沼市 〒949-6696 新潟県南魚沼市六日町180-1 電話025・773・6660(代表)
●編集 総務部 秘書広報課

市長日記 むーげー 無罣礙

南魚沼市長 林 茂男

「せめて」光れや稲越光（コシヒカリ）

驚いた表敬訪問が相次いで2件。それは、あの白鵬（はくほう）さん（現宮城野親方（みやぎのおやかた））と藤波辰爾（たつみ）さんで、「なぜ南魚沼市に？」と思いましたが、お二人に共通していたのはお米のご縁。「いろんなお米を食べてきたが、こんなにうまいものがあるのかと驚いた」と話された。さらに共通点は、お二人とも「誰が作っているのか探した」こと。

前人未到の45回優勝という元大横綱は私に「神が宿るお米だと思った」ともささやかれた。探し当てた六日町地区の青年農業者と組んで、この秋から『夢』と名づけた「白鵬米」として売り出します、と。アントニオ猪木さんの愛弟子として大活躍し、プロレス界に不動の名を刻む藤波辰爾さんは、訪ねた塩沢地区の農家から田を借りて、何と10年以上も前から当地に通い、自身で米作りを。経営されているお店で「藤波家のお米」として販売している、と。恥ずかしながら知らなかったなあ。

当市へのふるさと納税額は、昨年度45億円を超え、ついに県内1位に。全国1，788ある自治体中22位、米部門では間違いなく全国一で、返礼品の約8割は米・餅が占めています。ふるさと納税やさまざまな交流をきっかけに、当市が募集している「ふるさと応援隊」の登録者は、今なんと2万人を超えています。今月、市は初めてとなるファンの集い「南魚沼感謝祭」を東京赤坂の由緒ある乃木（のぎ）神社で開催します。トークショーなどには市の交流大使や藤波さんからもゲスト出演のご協力を。

お米のご縁が更なる広がりとなる中で、色づく稲穂に先人の汗を想わずにはいられない。コシヒカリ誕生に携わり、その名付け親の國武（くにたけ）正彦氏（元新潟県農業試験場長）が詠んだ「木枯らしが吹けば色なき越の国　せめて光れや稲越光」。当時の切ない挑戦心だったであろう「せめて」への思いを、今私たちは「攻めて光れ！」と置き換えて挑みたい。

国際大学留学生

お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

シリーズ 第114回

エルサルバドル共和国 アナ エウヘニア モラタヤさん

私の国はこんなところ

エルサルバドルは中米で最も面積が小さく、最も人口密度が高い国です。公用語はスペイン語です。小さな国のため、太平洋岸のビーチと火山を一日で訪れることができてしまいます。街での買い物、エルトゥンコビーチで完璧な波でのサーフィン、サンタアナ火山をハイキングのほか、美しい大聖堂、マヤ遺跡など、観光スポットやアクティビティがたくさんあります。

伝統料理は、チーズ・豆・豚肉をトウモロコシ粉の生地で包んで平たく伸ばして焼いた「ププサ」と呼ばれる料理です。キャベツと自家製トマトソースを添えて食べます。おいしいですよ。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では、すばらしい体験の連続です。雨季と夏しかない国から来たので、移り行く季節は初めての体験でした。来日した時は、紅葉がきれいな秋でした。寒く白一色の冬の後に、桜や彩り豊かな花が咲く春はあっという間に過ぎ、暑い夏が来て四季を体験できました。自分に体験する機会がやってくるなど考えたこともなかったスキーを、初めてやってみました。

編集後記

9月になってから夜涼しく感じる日が多くなり、とても過ごしやすくなりました。また、夜景や星空がきれいに見える日が多くなったように感じています。9月10日には、中秋の名月が南魚沼市を明るく照らしました。中秋の名月は旧暦の8月15日の夜に見られる月のことをいいます。ことしは満月と重なり、雲も少なかったためとてもきれいでした。（Y．K）

今月の表紙

9月4日㈰、おおまき小学校を主会場に南魚沼市民総合防災訓練が行われました。児童らは避難訓練のほか初期消火体験など、参加型の体験や講習に真剣に話を聞きながら、初めての活動に一生懸命取り組みました。

市民の動き 令和4年8月末日現在　（ ）は対前月比

●人口　53,999人（−62）／男26,415人（−52）　女27,584人（−10）　●世帯数 20,137戸（+25）